

関係者等からの意見聴取について

1. 令和7年9月30日、隈研吾CLT特別アドバイザーから助言。
2. 令和7年10月16日・28日、オブザーバー（10団体）からプレゼンテーション。
3. 令和7年10月下旬～12月上旬、以下の関係団体・有識者にヒアリング。

○関係団体

- ・国土交通省 国土技術政策総合研究所
- ・国立研究開発法人 建築研究所
- ・国立研究開発法人 森林研究・整備機構
- ・（公財）日本住宅・木材技術センター
- ・CLT利用建築物の先行事例の設計者・施工者
（（株）竹中工務店、三菱地所（株）、（株）MAKE HOUSE、ライフデザイン・カバヤ（株））

○有識者

- ・五十田 博 京都大学 教授
- ・河合 直人 工学院大学 名誉教授
- ・腰原 幹雄 東京大学 教授
- ・坂口 大史 日本福祉大学 准教授
- ・中島 史郎 宇都宮大学 教授
- ・中島 正夫 関東学院大学 名誉教授
- ・安井 昇 桜設計集団一級建築士事務所 代表
- ・山代 悟 芝浦工業大学 教授

ヒアリング等における主な指摘

○全般

- ・継続が必要な項目は、引き続きロードマップに位置づけるべき。(有識者)

○CLTの認知度が低い

- ・CLTの認知度はまだ低く、PRは継続必要。日本ではある程度知名度が上がると需要が急増する。(有識者)
- ・大規模イベント等でのPRは有効。(有識者、業界団体)
- ・耐火性、遮音性、耐久性、コスト面でのCLTに対するネガティブなイメージの払拭が大切。(事業者)
- ・CLTの特徴、使ってほしいやり方を見せていくべき。(有識者、事業者)
- ・設計事務所、地場ゼネコン、工務店等、ターゲットごとに一層の周知が必要。(業界団体)
- ・普及の観点からは、継続的な補助が必要。(有識者)
- ・CLT利用のボリュームゾーンを狙った実証が重要。いきなり高層を目指すのは現実的でない。(有識者、研究機関、事業者)
- ・標準モデルのバリエーションを充実させることが必要。(業界団体)
- ・建物のどこの部位に使用するとCLTの優位性がでるかなどを情報発信が必要。(研究機関)
- ・鉄骨造等にCLTを活用するなど、部分利用のニーズは多い。(有識者、研究機関、業界団体)
- ・ライフサイクルカーボンの評価方法等の取組については継続が必要。(業界団体)
- ・建物の評価や企業の評価において、(CLTを含む)木材利用が高い評価につながるような取組をアピールしていくことが重要。(有識者)

ヒアリング等における主な指摘

○コスト面の優位性が低い

○需要に応じたタイムリーな供給を行えていない

- ・CLTの値段を下げると山元にしわ寄せがくる。川上側への還元も重要。
(有識者、研究機関)
- ・公共部門の牽引による安定需要が、民間市場の拡大と産業基盤の形成につながる。(有識者)
- ・日本でCLTを製造している認識が諸外国では低い可能性があり、海外マーケットに向けて、輸出産業に育てる価値がある。(有識者)
- ・製造拠点は地域の偏りがある。(有識者)
- ・加工・ストックヤードが各地にあると利便性は高まる。(事業者)
- ・工場が通年で稼働することが重要。(有識者、事業者)
- ・低層に加え、今後は中高層向けの金物開発も必要。(有識者)
- ・流通量の多い金物等を活用し、木造に慣れていない設計者でも設計できるよう、接合方法の合理化を図るべき。(研究機関)
- ・部材設計によりコストの低減が図られることを設計者に周知することが重要。(有識者)
- ・設計・施工上参考になるディテール集の整備が有効。(業界団体)

○CLTの活用範囲が狭い

- ・CLTを柱やはりとして使えない。(事業者・有識者)
- ・幅広い断面構成のCLTが使える環境が整備されると良い。(有識者)
- ・土木利用の体系にあった製品品質の明確化が必要。(研究機関)

ヒアリング等における主な指摘

○CLTの設計・施工等をしてくれる担い手がみづかりにくい

- ・わかりやすい図書類、マニュアル類の整備が重要。(有識者)
- ・設計者に必要な情報(法令、マニュアル、製品情報、設計例、接合部データ等)が1箇所からたどり着けると良い。(有識者、事業者)
- ・設計から施工までのシームレスなデジタル化が重要であり、そのための標準フォーマットやプラットフォームが必要。(有識者、研究機関、事業者)
- ・CLT建築に携わったことのある人達の情報を引き続きポータルサイト等で発信すべき。(有識者)

○CLTの維持・管理の方法が分かりにくい

- ・(CLTを含む)木材利用については、耐久性に関する情報がネックになっている。(有識者)
- ・(CLTを含む)木造建築物の長期性能に対する知見が必要。(有識者)
- ・木造建築における留意点が普及していけば、おのずとCLTの耐久性についても認知される。(有識者)
- ・CLT建築物の耐久性や維持管理に関する情報の収集・整理が必要。(有識者)
- ・CLT等の木質材料の維持管理保全技術(点検方法、補修方法)の整備、技術講習会の開催。(有識者)